

## 【NEWS RELEASE】

2018年8月28日

各 位

株式会社三井住友銀行

「ESG/SDGs評価シンジケーション」取扱開始および「ESG/SDGs評価型資金調達」  
におけるFTSE RussellのESG評価結果に関する情報提供開始について

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、本邦金融機関初の取組として、お客さまの資金調達におけるシンジケートローン組成時に、お客さまご自身のESG（1）やSDGs（2）（以下「ESG/SDGs」）の取組・情報開示の状況を、株式会社日本総合研究所（代表取締役：淵崎 正弘）と弊行が作成した基準に基づく評価も合わせて行う「ESG/SDGs評価シンジケーション」の取扱を開始します。なお、第一号案件として、東証一部上場の住友化学株式会社に対するシンジケートローンの組成を行う予定です。

本商品にて、資金調達の実施後、お客さまには別途ESG/SDGsに関する診断レポートを作成し、改善アドバイスや他社事例の提供を行うなど、更なる取組向上のサポートを行うとともに、シンジケートローンに参加を検討する金融機関に対しては、対象企業のESG/SDGsに関する評価結果等を共有し、参加検討の際に活用していただくことで、参加金融機関含めたESG/SDGsの取組を進めてまいります。

また、今回、本シンジケートローン及び、弊行の既存商品である「ESG/SDGs評価型資金調達（3）」において、ご希望いただいた場合、FTSE Russell（代表：Mark Makepeace）（4）のESG評価を踏まえた情報提供も併せて開始します。

本情報提供は、ESG/SDGsの評価や情報提供を行う日本総合研究所においてFTSE Russellが提供する「ESG Ratings Data Model:FTSE Russell ESG Module & Ratings」の使用ライセンスを取得することを通じて、お客さまへの提供を可能にしています。

茲許、企業活動ではESGに配慮した経営や情報開示への関心が高まっており、投資家はESGを投資判断として加味した投資を拡大させています。三井住友銀行では、新たに「ESG/SDGs評価シンジケーション」およびFTSE RussellのESG評価を踏まえた情報提供を開始し、本業を通じ、持続可能な社会および市場の形成に一層貢献を行ってまいります。

以 上

<ご参考>

#### 1 ESGとは

ESGとは環境（Environmental）、社会（Social）、企業統治（Corporate Governance）の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

#### 2 SDGsとは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことであります。

#### 3 ESG/SDGs評価型資金調達とは

SMB Cグループのシンクタンクである株式会社日本総合研究所と弊行が作成した基準に基づき、お客様のESG/SDGsの取組や情報開示の状況について評価し、今後の取組推進を支援させていただく資金調達商品です。ESGに関する情報をCSRレポート等で公表されている法人のお客様が本商品の対象となります。資金調達の実行後には、ESG/SDGsの取組及び情報開示の評価結果を「診断シート」としてご提供させていただき、今後の更なる取組の促進に活用頂くことが可能です。

#### 4 FTSE Russellとは

FTSE Russellはロンドン証券取引所グループ（LSEG）100%出資の完全子会社であり、グローバルインデックスプロバイダーとして、市場および資産クラスを測定とベンチマークする数千の指標を算出し、現在、その対象国は70カ国以上、世界の投資可能市場の98%をカバーしています。

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。